

P-NPOICP2008 NPO経営資源開発研修

顔の見える
情報ネットワーク整備事業を通じた
政策提案発信力の強化



2008年12月13日



市民セクターよこはま
Citizen sector yokohama

発表者：吉原 明香・川崎 伸
インターン生 梅田 恵



当会の大きな課題

そもそもなぜできた団体？

- 病気・高齢など誰かが暮らしにくさを感じることもある。自分らしく暮らせるまちづくりのためには、制度と地域の支えあいの両方が不可欠。
- 課題解決のためには、自分たちがまず地域でできることに取り組み、現場から見えてきたことを政策提案していく必要がある。

★在宅福祉団体のゆるやかなネットワーク★

10年が経ちました・・・

現場を持ち、かつ当会の理念と活動の支柱となる人たちをどう確保していくか

サマリー

政策提案の源は、地域での在宅福祉活動だけでなく、行政や社会に働きかける政策提案も重要と考える人々

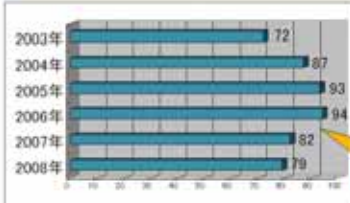
その層を開拓していくことは、ミッションと合致（現場団体をより集める必要）

ポータルサイトや政策発信力のある情報誌の取材に力を入れ、信頼関係を築く

現状分析

抱えている課題

● 団体会員は減少傾向



12団体減
現場力の源
危うし！

現状分析

抱えている課題（団体会員からみた場合）

～総会での発言～
もっと団体活動に役立つ情報発信を！
連絡会にもっと力を入れるべき！

本当に私たち現場の声を
事業企画や政策提案に活かしているの？

当会の強みは？

現場もわかるし、政策動向もわかる

職員数も比較的多いので、
現場に行きやすくなってきた

現場に出かけ、取材ができる

ターゲットとポジショニング

- **ターゲット**
地域に根ざした団体を中心に幅広く
(参考：横浜市内のNPO法人は1047団体)
- **競合**
「福祉」ベースの協議体として競合するのは
社会福祉協議会
- **強み・弱み**
当会は民間団体の機動性・柔軟性という強みがあるが、財源については弱い

マーケティング施策

サービス

- 顔の見える情報ネットワークの整備

量より質重視のデータベースを整備し
ポータルサイトの形で提供

- ・ブログとも連動
- ・取材に基づく、政策提案視点の情報誌とも連動

★ポイント：顔の見える関係づくり

マーケティング施策

プロモーション

キャッチコピー例:生活を政策へ

- 既存告知ツールの活用
 - ・ホームページ(現在月15,000アクセス)
 - ・本体メルマガ再開(現在1,000人へ送信可能)
 - ・ニュースレター(現在1,700部発行)
- 口コミ、支援機関を通して広報
- 取材にいて、いい関係性が築けそうな団体をお誘い

目標の設定および効果測定

目標の設定

- ポータルサイト: 月30,000アクセス
- 2010年までに団体会員25増
理由: 100団体をめざしたい!
- 2009年度より、半期ごとにプロジェクトの進捗状況を数値的に確認・分析し、その後の取り組みに活かす

予算(概算)

マーケティング施策にかかる一連のコスト 年間経費の試算

- 新ポータルサイトの構築にかかる経費
- 情報誌創刊にかかる経費
- 取材や記事執筆にかかる人件費
 - ・デザイン料500,000円
 - ・人件費@15,000×150日=2,250,000円
 - ・編集委員謝金等@5,000×のべ20人=100,000円
 - ・印刷・編集費@100,000×4回=400,000円
 - ・諸経費 250,000円
 - 計350万円(うち自己資金100万円)
 - ★民間助成金などを視野に入れて検討中

スケジュール

- 09年1~3月
現会員へのアンケート、ヒアリング・取材の実施(事前調査)
- 09年4~5月
「新しい情報ネットワーク」企画概要の検討・決定(事業計画への反映)
- 09年6月~
取材開始
- 09年7月~
データベースの構築、HPリニューアル開始
- 09年10月~
情報誌創刊

ゴールイメージ

市民提案の政策づくりが
新しい団体も加え
できるようになっている

- データベース・ポータルサイトの充実
 - ※政策提案は市民とどれくらいつながっているかわかる
- 情報誌の充実
 - ※課題を抱える市民の声を聴き続け、社会に発信
多様な価値観を認め合うメッセージ性のある内容

研修を通して

- 想いがいっぱいだけでは伝わらない。
- お客様視点・利用者視点が大事だと、あらためて実感。
- 「なぜやるのか(やっているのか)」ストーリーを考えることで、伝えやすくなる。

そして...

- ほかの団体さんに感謝
- 主催者の方々・長浜さんに感謝
マーケティングの入り口に入れた。(かな?)
- 若い人たちに感謝
若い人が社会に目を向けていることが分かり、
未来に希望が持てた!